いちはらフィールドマップ巡り（3）

― 国分寺台コース ―

220316

山本勝彦（かずさのくに国府探検会）

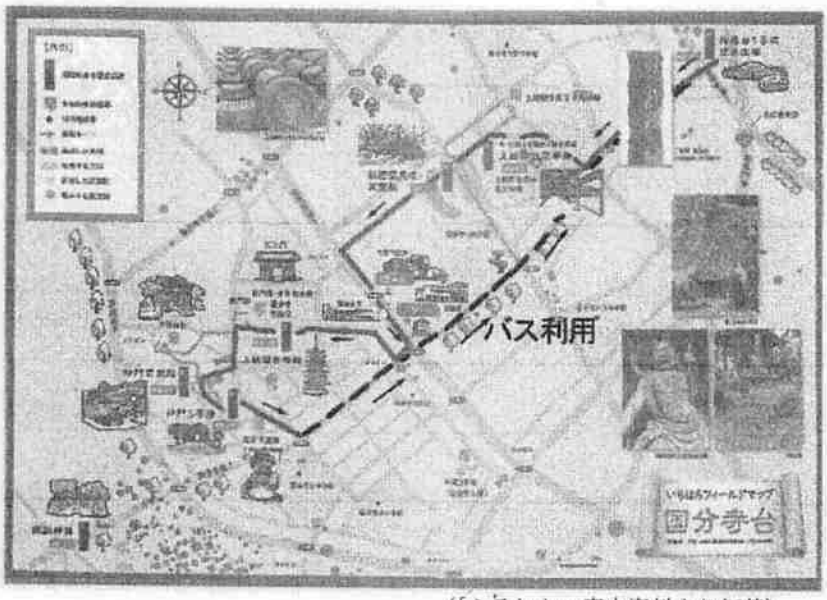
歴史考古学会では「日本の古代国家はいつ成立したか」と言う命題に対して古代国家成立の画期となった時代が七世紀、五世紀、三世紀にあるということで、「七五三論争」と言う議論がある。七世紀は律令社会の時代、五世紀は「倭の五王」の時代、三世紀は邪馬台国の時代の事を言う。

〈都出比呂志氏「古代国家はいつ成立したか」岩波新書（2013）〉

国分寺台地区には古代史の遺跡・遺産が凝縮されていて、七五三論争に対応する貴重な史跡が存在する。すなわち七世紀の国分寺・国分尼寺、五世紀の稲荷台古墳、三世紀の神門古墳である。

今回は「いちはらフィールドマップ巡り～国分寺台コース～」を通して、これらの「七五三論争」に対応する遺跡を訪ねることによって、市原が誇る歴史遺産に想いを馳せたいと思う。

期せずして、この七五三史跡は一直線上にある。これは何を物語るのだろうか。



（「ふるれん」案内資料より転載）

市役所 ⇒ 国分寺史跡 ⇒ 神門古墳 ⇒ バス（国分寺台中学校→山田橋）
9:00　　10:23　　10:26

⇒ 稲荷台古墳 ⇒ 国分尼寺史跡 ⇒ 祇園原貝塚 ⇒ 市役所
11:00　　12:00

○国分僧寺・国分尼寺

国分僧寺・国分尼寺の建立は聖武天皇が諸国に造営を命じた奈良時代最大の国家プロジェクトです。その中で、上総の国分寺は、寺院地の大きさが全国最大級の規模（尼寺は全国第１位、僧寺は第３位）であり、寺院の全容が初めて解明できた学術的にも貴重な国指定史跡です。国分尼寺では中門回廊が復元されていて、往時のバーチャル体験をすることができます。

○国分寺境内関連史跡

国分寺境内にはいくつかの指定文化財があります。

①仁王門金剛力士像　阿像（市指定）

国分寺仁王門に阿吽像がある。阿像は力感あふれた鎌倉時代の作であり、吽像は江戸時代後期の改作である。

②将門塔（市指定）　　資料３「桓武平氏」

菊間の新皇塚古墳の墳丘に「将門塔」と伝承されてきた宝篋印塔を移築した。典型的な関東型の宝篋印塔で南北朝の作である。将門塔に因んで「桓武平氏」から源平合戦に至る歴史を概括する。

○神門（ごうど）古墳

弥生時代終末期に造られた東日本最古の前方後円墳はしりの古墳です。時期的には邪馬台国の時代で、邪馬台国と同じ墓文化が東国の市原に存在していた事はミステリーであり、学術的に貴重な史跡です。

○神門瓦窯跡・南田瓦窯跡

国分寺の創建瓦や補修瓦を焼いた瓦窯跡が国分寺周辺にある。神門瓦窯は「登窯」形式であり、南田瓦窯は生産性の高い有床式の「平窯」形式である。

○稲荷台古墳・稲荷台遺跡

稲荷台古墳は１３基の円墳からなる古墳群である。１号墳は五世紀半ばに築造され、日本最古の文字を記した「王賜」銘鉄剣が発見された。超一級の史料である。
またこの周辺の稲荷台遺跡から平安時代の出土品が大量に発掘されている。宗教的色彩を帯びた祭祀遺跡と考えられている。

○祇園原貝塚

祇園原貝塚は３０００～４０００年前の縄文時代後期の大規模な集落を伴う貝塚である。１０００年にわたって営まれた集落で、中央広場をとり巻いて住居・貝塚・墓地がある。人骨が100体以上も出土し、保存状態も良好でＤＮＡ解析による縄文人の情報が得られている。

◇国分寺建立の詔

天平13年(741)2月14日

私は徳の薄い身であるのに、恐れ多くも天皇という重い任務を受けている。しかし、民を導く良い政治を広める事ができず、寝ている時も目覚めている時も、恥ずかしい気持ちでいっぱいだ。

昔の賢い君主は皆、祖先の仕事をよく受け継ぎ、国家は穏やかで無事であり、人々は楽しみ、災害はなく、幸福に満ちている。どうすれば、このような政治が出来るのであろうか。この数年は、凶作が続き、伝染病が流行している。私は恥ずかしさと恐ろしさで、自分を責めている。

そこで、国民に大きな幸福をもたらしたいと思う。以前(天平9年11月)、各地の神社を修造させたり、諸国に丈六(一丈六尺＝4.8m)の釈迦牟尼佛一体を造らせると共に、大般若経を写させたのもその為である。お陰で、今年の春から秋の収穫の時期まで、風雨が順調で五穀が豊かにみのった。これは、誠の心が伝わったためで、神霊の賜りものである。これからも益々尊ばねばならない。

金光明最勝王経には「もし広く世間でこの経を読み、供養し広めれば、我ら四天王は常に来て、その国を守り、一切の災いもみな取り除き、心中に抱くもの、悲しい思いや疫病もまた消え去る。そして全ての願いをかなえ、喜びに満ちた生活を約束しよう」とある。

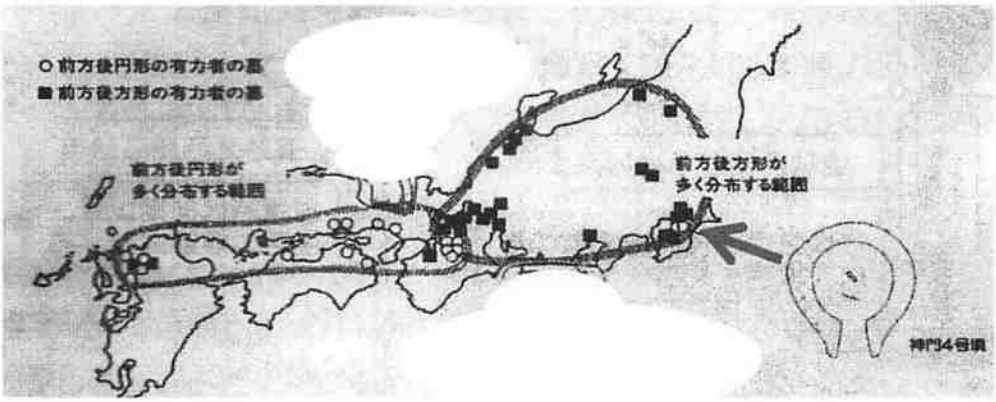
そこで、諸国はそれぞれ七重塔一基を敬って造り、併せて金光明最勝王経と妙法蓮華経各十部を写経させる事とする。私もまた、金文字で今光明最勝王経を写し、塔ごとに一部づつ収めたいと思う。

七重塔を持つ寺(国分寺)は「国の華」であり、必ず良い場所を選んで、まことに長く久しく保つようにしなければならない。人家に近すぎると悪臭が漂うからいけない、遠すぎると集まる人が疲れてしまうから望ましくない。国司は国分寺を荘厳に飾り、いつも清潔に保つように努めなさい。

(武蔵国分寺跡資料館解説ノートより)

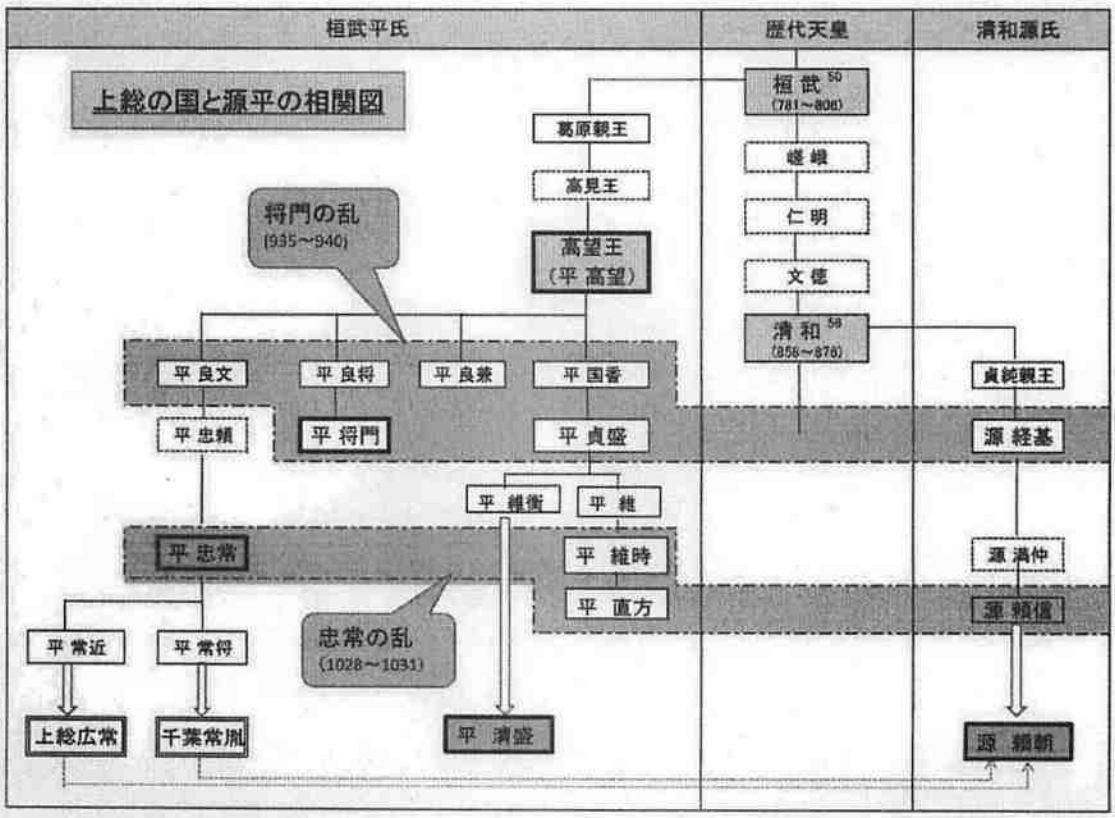
◇上総国分寺(今光明四天王護国之寺)　国指定史跡

- 国分寺建立の詔(聖武天皇)
- 遺跡の全体像が完全に解明されている(全国初、国分寺研究のメッカ)
- 寺院地の広さが全国第3位(1位:武蔵国　2位:下野国)
- 今光明最勝王経を信ずることによって国難を払拭する
- 七重塔が最重要伽藍(仏舎利→法舎利)

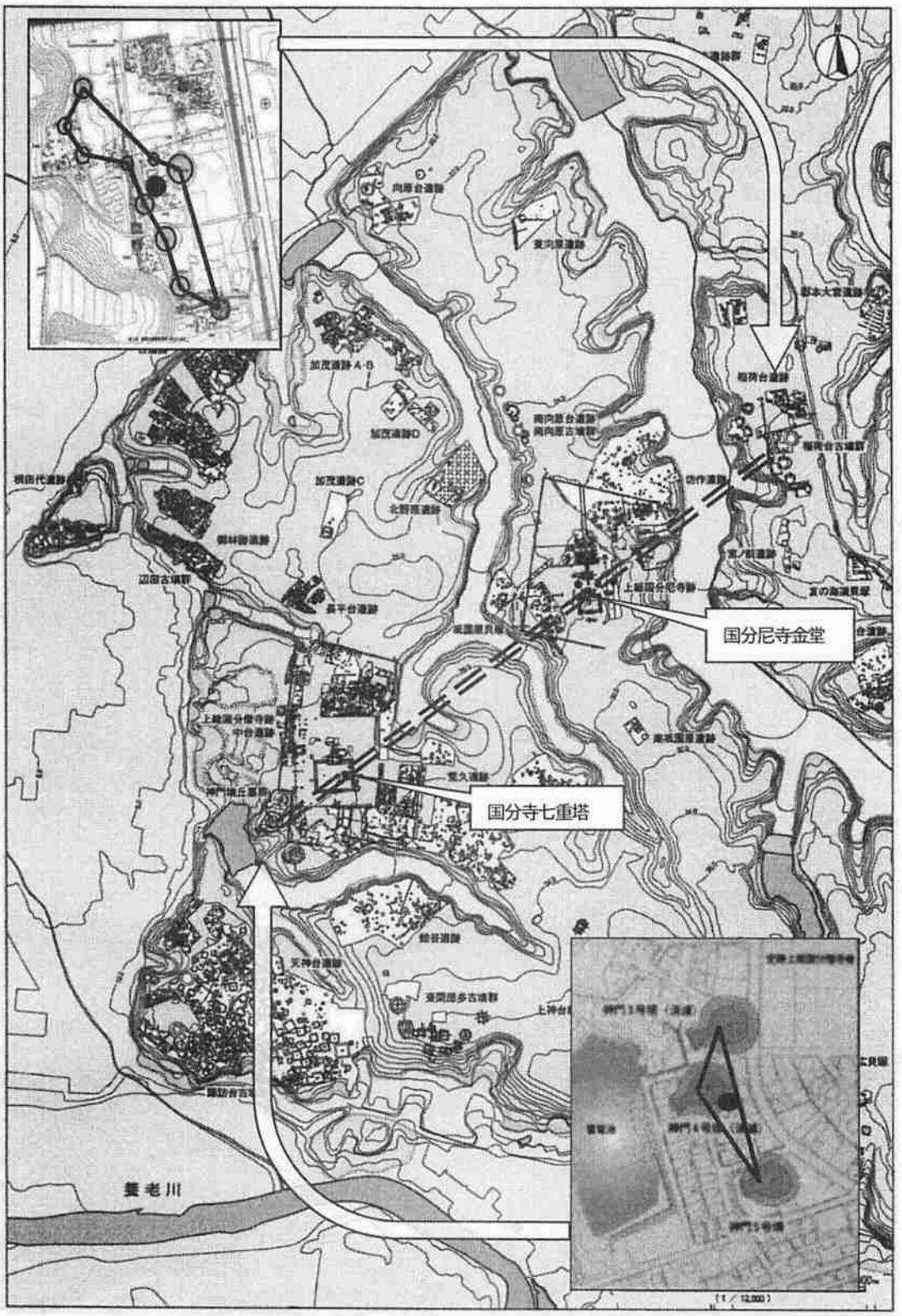


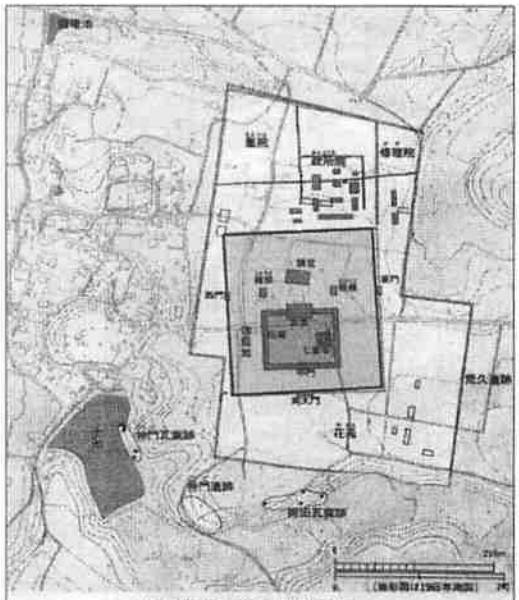
◇桓武平氏

・高望王（桓武天皇のひ孫）が上総国司となる（898～892）。上総国に土着。
・一族は房総・常陸に勢力を拡大した。世に桓武平氏という。
・桓武平氏から平将門や平忠常が騒乱を起こし、源平合戦の遠因となる。



◇七五三古代史ライン（稲荷台古墳～国分尼寺金堂～国分寺七重塔～神門古墳）





上総国分寺跡全体図（1/6000）

◇上総国分尼寺（法華滅罪之寺）　国指定史跡

- 遺跡の全体像が完全に解明されている
- 寺院地の広さが全国第１位（総本山の法華寺に匹敵する）
- 中門回廊が当時の仕様で復元されている

上総国分尼寺跡全体図（1/6000）

◇神門古墳（県指定文化財）

- 弥生時代末期から古墳時代にかけての古墳（３世紀前半）。
- 初期の前方後円墳で、東日本で最古の古墳。
- 卑弥呼の時代、東日本で唯一の前方後円型古墳（周囲は前方後方型古墳）